

# 事業者における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 4 年 2 月 21 日

事業所名 ワーカーズコープこもれび

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動部屋をアコーディオン等で仕切り、マットの色分けを行って視覚的に分かりやすくしている。	
	②	職員の配置数は適切である		○		職員数がギリギリで、一人でも欠けられない状態。就業支援センターと繋がって求人募集を行っている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		プレイルームについては配慮している。	玄関においては、家の構造上バリアフリーにできない部分がある。
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○	職員会議等で話し合いを行っている。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		個別に意向をお聞きし、業務改善につなげている。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPの他に、事業所玄関にも掲示している。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		現場研修は月1回行っている。	職員が少ない為、一部の職員しか外部研修に参加できないが、職員の中で機会を見て参加している。
適切 な 支 援 の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		ケース会議の中で、課題を話し合い計画を作成している。	新型コロナウイルス感染防止の為、対面での面談が出来ていない。希望者のみ対面談を実施している。その他、送迎時に保護者と情報共有を行っている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員会議で行なっている。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○	月に2回ミュージックケアを実施したり、季節の行事などを行っている。	その日の子ども達の状況によって、プログラムを変更しているが、その活動内容がマンネリ化している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用者の目標に合わせて計画を作成し、実践している。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		毎日ではないが、気になる点があった場合には振り返りを行っている。その日に出来なかったとしても後日ケース会議で振り返りを行っている。

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			「地域交流の機会と提供」が出来ていない。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			新型コロナ感染防止の為、担当者会議が行われていないが、今後行われる際には参画する。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			現在、該当する利用者はいないが、かかりつけ医や主治医を把握し、緊急時には対応出来る様にしている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			相談支援事業所から就学前の情報提供はあるが、直接の繋がりはない。情報を共有できるように努めていきたい。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			現在、該当する利用者はいないが、今後該当者が出た場合は情報を提供する。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			専門機関との繋がりはない。コンタクトを取って行きたい。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			新型コロナウイルスの影響で、交流が出来ていない。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			新型コロナウイルス感染拡大防止の為、参加出来ていない。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時に保護者と情報を共有している。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		連絡帳や送迎時に相談された時は助言を行っている。	
		⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学・契約の際に説明を行っている。
㉑		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳や送迎時、面談の際に相談された時は助言を行っている。	

保護者への説明責任等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止している。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情窓口に関する書面を事業所玄関に掲示している。	
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年4回『こもれびだより』を発行している。	
	③⑤	個人情報に十分注意している	○			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		先生や保護者、相談支援員と情報共有を行い、ジェスチャーや絵カード等を用いて意思の疎通を行っている。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		年に3回「みんなの食堂」を実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在中止している。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		利用契約時に「緊急やむを得ない身体拘束に関する同意書」にて説明を行っている。	支援計画書にも記載をし、計画作成の都度、説明を行っている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	アレルギーの有無については調査票や面談の際には確認を行って対応している。	
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		いつでも閲覧できるようにファイリングしている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。